

1. 科目名(単位数)	法学(憲法) (2単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	森 長秀		
4. 授業形態	講義(質疑応答を含む)を主とするが、事例問題ではグループ討議、発表、検討を行う。講義はレジュメに沿って行うが、理解を助ける上で教科書を使用したり、必要な最新情報等を提供したりする。各自が要点を把握し、配布されたレジュメに筆記することが必要である。毎回の授業時間の末尾においてその日の授業内容に関する内容を記入し、提出する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	今後学ぶことが考えられる法律に係る科目の基礎となるものである。この科目は、民法、行政法、教育法規等を学習するときの基礎知識となるものである。		
7. 講義概要	<p>本科目は、教育職員免許状を取得する際の基礎資格として必須科目である。また、公務員試験を受験する際の必要な科目ともなっている。</p> <p>公務員や教員だけに限らず社会人にとって、法について基礎知識を学び、身に付けることは仕事を進める上で大切なことである。また、一般の公務員や教員及び企業人の実践力は法に裏付けられたものでなければ、その役割を全うすることは困難である。</p> <p>そこで、本講義では法の作用や役割を学び、社会人として必要とされる法律の基礎知識を習得する。なお、習得の際には、関連する多くの具体的事例を通して学んだり、他国の法との比較を通して学んだり、時にはグループディスカッションをしたりして理解を深めることにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法学(憲法)の基礎知識を理解する。</li> <li>2. 法学を学ぶには、条文や判例などを読むことは欠かせないものであるとの学習態度を身に付ける。</li> <li>3. ささまざまな国の憲法を比較することができる力を身に付ける。</li> <li>4. 法律的なものの考え方を理解し、仕事に就いたときに活かせるようにする。</li> <li>5. 教員採用試験や公務員試験に出題される法規一般の問題に対応しうる法律知識を身に付ける。</li> </ol>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	講義内容の理解度をはかることや次回講義への問題意識を高めることを目的として、リアクションペーパーの提出(遠隔の場合は送信による)を求めるほか、簡単な確認テスト(随時)をおこなう。		
10. 教科書・参考書・教材	新・社会福祉士シリーズ18「権利擁護をささえる法制度」福田幸夫・森長秀編集(弘文堂)。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法一般の決まりや法規学習についての基礎知識を身に付けることができたか。</li> <li>2. 日本国憲法の基本原理と三権についての理解を深めることができたか。</li> <li>3. 国家試験(社会福祉士や精神保健福祉士)や公務員試験(一般行政職、公立学校教員、公立保育所、警察官など)の受験の基礎となる科目である。試験合格に対応できる力を身に付けることができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み状況(授業態度、発言、発表など) 40%</p> <p>レポートや理解度テストの結果 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	おおむね下記の内容に沿って講義形式でおこなうが、テーマによっては、受講者の意見を求めるなど、双方向的な講義を展開したい。担当者と一緒に講義を作るような積極的な意識を持った受講者を歓迎する。また、国家試験において必ず合格するという高い目標と意欲をもって受講してほしい。		
13. オフィスアワー	講義曜日の講義前後の休憩時間および昼休み		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス、授業の進め方、評価の方法、社会福祉士国家試験の概要および本科目との関係	事前学習	シラバスを読んで、学修内容の全体像をイメージする。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第2回	「法の基礎」 法規範と他の規範 法の体系・種類・機能 法の解釈 裁判制度と判例	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第3回	憲法(1) 憲法の内容 日本国憲法の成り立ちと概要 基本的人権の分類と内容	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第4回	憲法(2) 自由権(思想良心の自由・信教の自由と政教分離原則 表現の自由・学問の自由)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第5回	憲法(3) 社会権(生存権および朝日訴訟・堀木訴訟の内容と意義 教育権 労働権)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第6回	憲法(4) 平等権(「法の下での平等」原則と重要判例 新しい人権(プライバシー権・環境権など))	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。

			ント)をよく読み、復習する。
第7回	民法(1)財産法分野① 民法典の構成(財産法分野と家族法分野) 民法総則の概要(能力・意思表示・代理・時効)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第8回	民法(2)財産法分野② 契約(契約総論 契約各論 契約類型と内容) 不法行為(成立要件・損害賠償 使用者責任)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第9回	民法(3)家族法分野① 婚姻関係(成立・効果・終了)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第10回	民法(4)家族法分野② 親子関係(実子と養子 嫡出子と非嫡出子)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第11回	民法(5)家族法分野③ 相続(法定相続人と相続分 遺言と遺留分制度)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第12回	刑法(1) 刑事手続きの概要(20歳以上・20歳未満) 刑法の概要①(個人法益を侵害する罪)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第13回	刑法(2) 刑法の概要②(社会法益・国家法益を侵害する罪)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第14回	刑法(3) 刑法の概要③(刑罰の種類 犯罪の成立要件)	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
第15回	刑法(4) / 科目全体のまとめ 裁判手続きの分類と裁判員制度の概要	事前学習	教科書の該当ページを通読し、問題意識や質問等をメモしておく。
		事後学習	本日学んだ部分(教科書、ノート、配布プリント)をよく読み、復習する。
期末試験			